

令和元年度第2回全国健康保険協会秋田支部評議会議事録

開催日時：令和元年7月16日（火）10：30～12：00

開催場所：ルポールみずほ 3階 ゆりの間

出席者：松淵評議員（議長）、金子評議員、佐々木（宏）評議員、佐野評議員、小林評議員、
佐々木（卓）評議員、館岡評議員、近藤評議員 （代表別・50音順）
中田支部長、桜田部長、三浦部長、佐藤グループ長、二田グループ長、安田グループ長
間杉グループ長、沼倉主任、高橋主任（記）、澤口スタッフ
議事録署名人：佐々木（宏）評議員、佐々木（卓）評議員 （代表別・50音順）

■ 議事事項

1. 平成30年度協会けんぽの決算と秋田支部の収支について

■ 質疑応答、意見交換等

【学識経験者】

資料2 ページに扶養率という言葉があるが、この数値は何を示しているのか。

【事務局】

被保険者1人あたりに何人扶養がついているのかを示した数値になっており、【扶養率＝被扶養者／被保険者】の計算式で算出されている。

【学識経験者】

資料3 ページにある賃金（標準報酬月額）の平成30年度伸び率は+1.2%とあり、資料6 ページにある賃金の平成30年度伸びは1.01%とあるが、それぞれ何を基準にしているのか。

【事務局】

資料3 ページは前年度の数値を基準にしており、資料6 ページは平成20年度を1とした場合を基準にしている。

【事業主代表】

被保険者数の推移について、平成29年度をピークに急激に伸び率が鈍化したとあるが、何か要因はあるのか。また、医療費の動向について、平成27年度に高額な薬剤が新たに保険医薬品として収載され高い伸び率となったとあるが、こちらの最新の動向もわかればお答えいただきたい。

【事務局】

伸び率の鈍化については、日本年金機構の適用促進対策の取組みが平成29年度まで集中的に行われていたと承知しているが、被保険者数の伸び率の鈍化との関係は把握できていない。医療費の動向については、高額なC型肝炎治療薬やがん治療薬が新たに保険医薬品として収載されたことにより、平成27年度は高い伸び率を記録しており、今後も1回あたり数千万円という高額薬が保険医薬品として収載される可能性があるため、注視していかなくていけないと考えている。

【事業主代表】

現在、協会けんぽの国庫補助率は 16.4%とあるが、今後 20%に引き上げられる可能性はあるのか。また、保険料率を下げ準備金を減らし、国庫補助率の引き上げ要求をすることは可能なのか。

【事務局】

国庫は主な保険給付費の 13%～20%を補助すると法定されているため、国庫補助率引き上げの可能性はないとは言えない。しかし、保険料率を引き下げた場合、協会の財政運営が改善したと捉えられ、逆に国庫補助率の引き下げにつながる可能性が高くなる。また、保険料率に関しては、人口構成の変化や医療費の動向などを考慮したうえで、中長期的な視点で保険料率を決定すべきであると考えている。

■ 議事事項

2. 保険者機能強化に関する意見交換

■ 質疑応答、意見交換等

【学識経験者】

資料 7 ページの他支部の取組みに「自己負担額無料の集合健診の実施」とあるが、集合健診の自己負担を無料にするのは相当な財政負担になるのではないのか。

【事務局】

協会けんぽで負担する特定健診の費用は現在 6,650 円と定められている。そのため、自己負担を無料にしている支部は、集合健診の実施機関と個別に契約を行い、6,650 円の範囲内に健診費用を抑えることで自己負担を無料にしている。秋田支部では、交渉はしているものの残念ながら無料化には至っていない。

【事業主代表】

協会けんぽで送付している特定健診の案内を見たが、わかりにくいと感じた。内容を整理して、重要な文字を大きく見やすくしてみたいか。また、特定健診やがん検診など様々な健診の種類があり、その点もわかりにくいので、こちらも工夫が必要なのではないか。

【事務局】

いただいたご意見を参考に改善してまいりたい。

【事業主代表】

特定健診の受診率は、山形支部が特出して高いが、山形と秋田でどのような違いがあるのか。

【事務局】

山形では、秋田に比べて健診受診環境が充実しているためと思われる。

【学識経験者】

先日の新聞に、政策現場で「ナッジ」と呼ばれる手法が広がっているという記事があった。東京都八王子市の試みを紹介しながら、“人間は利益よりも損失に強く反応する”など心理に働きかけるちょっとした工夫で成果を上げられるということを説明していたが、このような手法を上手に取り入れてみては

いかがか。

【被保険者代表】

被扶養者に特定健診の案内を届けても、目を通さなかったり、詳しく読まない場合があるため、案内を送付した後に健康保険委員を通して健診を受診するよう声掛けをするなど、健康保険委員を活用した取組みが必要ではないかを感じる。また、それに合わせて委員会研修会等で健康保険委員の制度理解を深めていくことも大切であると感じる。

【被保険者代表】

特定健診の案内について、事業所を通して被保険者から被扶養者に届ける方法は取れないのか。

【事務局】

以前、事業所を通して被保険者から被扶養者に特定健診の受診券を配布していたが、受診率が伸び悩んでいたため、被保険者の自宅に直送する方法に変更したところ数値が上がったという経過がある。そのため、なかなか従来の方法に戻すのは難しいと思われる。

【事業主代表】

食品サンプルを使用して、特定の食品の摂取量を控えるよう促す取組みを推進することで、食品産業に影響を与えることはないのか。

【事務局】

これまで、厚生労働省をはじめ様々な団体がサンプルを用いて減塩を呼びかけているため、当該取組みによって食品産業に影響を及ぼすことはないと考えているが、表現の仕方に留意しながら取組みを進めてまいりたい。

【事業主代表】

経済 5 団体に対して要望書を提出することは大きな効果があるため、被扶養者の健診受診や血圧計設置の推奨など血圧リスク抑制に向けた取組み等に関して、秋田県等と連携して要望書を提出してみてはいかがか。

【事務局】

大変参考になるご意見をいただいたため、秋田県や他保険者との連携も考えながら、どのような形で実現できるのか検討してまいりたい。

【被保険者代表】

血圧リスク抑制に関して、自分自身の数値を常に認識してもらうことが健康意識を保つことにもつながるため、各事業所に血圧計設置をお願いするなどといった取組みはできないのか。

【事務局】

血圧計設置については、健康経営宣言エントリー時の健康プラン選択欄に盛り込んでいたり、血圧計の貸し出しを行ったりして後押しを行っているが、いただいたご意見を参考にもう少し踏み込んだ取組みができないか検討してまいりたい。

【学識経験者】

健康寿命や平均寿命、塩分摂取傾向などを対比できるトータルの表があれば問題が見つけられやすい

のではないか。

【事務局】

ご意見を参考に検討してまいりたい。

【被保険者代表】

減塩については、小さい頃からの食生活が大切であるため、PTA を通した保護者へのセミナー開催等の取組みが必要なのではないか。また、血圧値は計測したその場で数値がわかるため、血圧が高い人には健診時にその場でパンフレットを渡すなどの取組みも効果が高いのではないかと思う。

【事務局】

ご意見を参考に検討してまいりたい。

【事業主代表】

年に 1 度の医療費通知は必ず目を通すので、これだけは知ってほしい重点項目を掲載したチラシを医療費通知に同封してみてもいいか。

【事務局】

医療費通知は、全国一括作成の通知であるため、支部独自のチラシ類を同封することは難しいが、医療費通知のほかにも様々な通知があるので、さらにわかりやすく目立つように内容の見直しをしながら効果的な広報等を行ってまいりたい。

■次回評議会の開催 令和元年 10 月開催予定